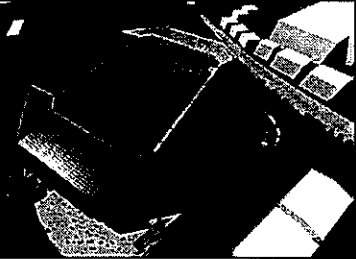


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)京都スタジアム | 階数 | 地上4F |
| 建設地 | 亀岡駅北土地区画整理事業施行地 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 防火地域、商業地域 | 平均居住人員 | 22,000 人 |
| 地域区分 | 5地域 | 年間使用時間 | 1,500 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 物販店・集会所 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2020年1月 予定 | 評価の実施日 | 2017年11月8日 |
| 敷地面積 | 33,147 m ² | 作成者 | 平川 憲亮 |
| 建築面積 | 16,083 m ² | 確認日 | 2017年11月9日 |
| 延床面積 | 35,314 m ² | 確認者 | 清野 真一 |



| 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) | 2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート) | 2-3 大項目の評価(レーダーチャート) |
|--|--|----------------------|
| <p>BEE = 1.6</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★</p> | <p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 91%</p> <p>③上記+②以外の 91%</p> <p>④上記+ 91%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p> | |

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

| Q1 室内環境 | Q2 サービス性能 | Q3 室外環境 (敷地内) |
|---|------------------------------|--------------------------------|
| Q1のスコア = 3.3 | Q2のスコア = 3.6 | Q3のスコア = 4.1 |
| 音環境: 3.4, 温熱環境: 3.0, 光・視環境: 3.0, 空気質環境: 4.0 | 機能性: 4.0, 耐用性: 3.6, 対応性: 3.3 | 生物環境: 4.0, まちなみ: 5.0, 地域性: 3.0 |

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

| LR1 エネルギー | LR2 資源・マテリアル | LR3 敷地外環境 |
|--|----------------------------------|----------------------------------|
| LR1のスコア = 3.3 | LR2のスコア = 3.6 | LR3のスコア = 3.2 |
| 建物外皮の: 5.0, 自然エネルギー: 4.0, 設備システ: 2.0, 効率的: 3.0 | 水資源: 3.3, 非再生材料の: 3.6, 汚染物質: 3.3 | 地球温暖化: 3.3, 地域環境: 3.0, 周辺環境: 2.2 |

| 3 設計上の配慮事項 | | その他 |
|--|---|---|
| <p>総合</p> <p>本計画は景観への影響を最小限に抑え、亀岡駅周辺のコンパクトなまちづくりに適したスタジアム計画とするために、京都らしい細やかなデザインを取り入れている。</p> <p>また、騒音・光害・地下水への影響などの対策により、周辺地域への影響を最小化する計画としている。</p> | | |
| <p>Q1 室内環境</p> <p>VIPホールやVIPラウンジ等は吸音性能、遮音性能のある室内環境としている。</p> | <p>Q2 サービス性能</p> <p>観客席スタンドはピッチレベルとの高低差を抑える事で臨場感のある試合観戦環境とする。</p> <p>また、VIPラウンジ+テラス席は京都らしいインテリアに包まれながら食事や観戦を楽しむことのできる、充実した</p> | <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>屋根高さを抑え、突起物や付加的装飾を排してシンプルでおだやかな建物のシルエットとすることで、亀岡盆地の風景と調和する計画とする。</p> <p>また、野鳥を京都府内産木材を用いたホルダーを採用</p> |
| <p>LR1 エネルギー</p> <p>太陽光発電設備を設置することで自然エネルギーの利用を行っている。</p> | <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>F☆☆☆☆以上の建築材料を使用し、化学汚染物質の放散量を削減する計画とする。</p> | <p>LR3 敷地外環境</p> <p>敷地周辺の生物環境に配慮した施工方法とする。また光害や騒音を抑えた建築計画とする。</p> |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される